

野田村支援・交流活動

いつも多大なるご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。本学ボランティアセンターでは、東日本大震災以降、岩手県野田村への支援・交流活動を継続しています。

昨年は新型コロナ以降初めて、計画していた「夏祭り」、「夏休み宿泊学習会」、「クリスマス会」、「追悼式の参列」をすべて計画通りに実施することが出来ました。「夏祭り」では、新型コロナウイルス感染症流行期以降初めて、弘前市民の皆さんと野田村の皆さんが一つの輪になって盆踊りを踊りました。4年ぶりの再会に涙する参加者もいて、両地域の絆の深さを改めて感じました。また、「夏休み宿泊学習会」や「クリスマス会」では野田村の子どもの笑顔がとっても印象的でした。

今年の元日に発生した能登半島地震ではボランティアの受入体制が整わず、復旧作業に困っている被災者の声が多く聞こえてきました。また、被災した地域の復旧にはボランティアの力が欠かせないことも改めて認識いたしました。相次ぐ大規模災害から地域を守っていくためにも、本学ボランティアセンターが今まで経験してきた教訓を忘れず次の世代に繋いでいくことの重要性を再確認いたしました。環境を整えば能登半島地震の被災地にも出向き、支援活動を行いたいと考えています。今後とも「大学の力」で地域の笑顔を守る様々な活動を行っていきたいと思いますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

弘前大学地域創生本部ボランティアセンター長
人文社会科学部・教授 李永俊

弘前大学ボランティアセンターの学生事務局として、ボランティアの企画、運営、活動に携わっております。日頃より、多くの皆様に多大なるご支援・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

当ボランティアセンターでは、主に弘前市内での学習支援や通学路の除雪の他、東日本大震災で被災した岩手県野田村への支援・交流活動を行っており、今年度は新型コロナウイルス感染症による活動の制限も無くなったため、以前の規模で活動を行うことができました。また、総合文化祭での出店も再開し、野田村支援活動 PR のため「のなかふえ」を出店し、野田村特産「野田塩」の販売や、野田村産山ぶどうパフェの販売を行い、多くの方に楽しんでいただきました。

野田村との交流は震災当時から先輩が継続して行っており、今年で13年目となりますが、そのうちの2年間の活動の中で継続する大切さや難しさを感じました。特に、昨年大雨により青森県内で災害が発生した際、野田村から多くの方が災害支援に来ていただき、ある程度復興した後も支援や交流を継続し、助け合いのつながりを絶やさないことの大切さを実感しました。

活動を継続していくためにも、今後とも更なるご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。最後になりますが、皆様からのご支援に心より感謝申し上げ、これからも地域のボランティアの拠点となれるよう日々取り組んでいきます。

弘前大学理工学部2年
羽原拓哉